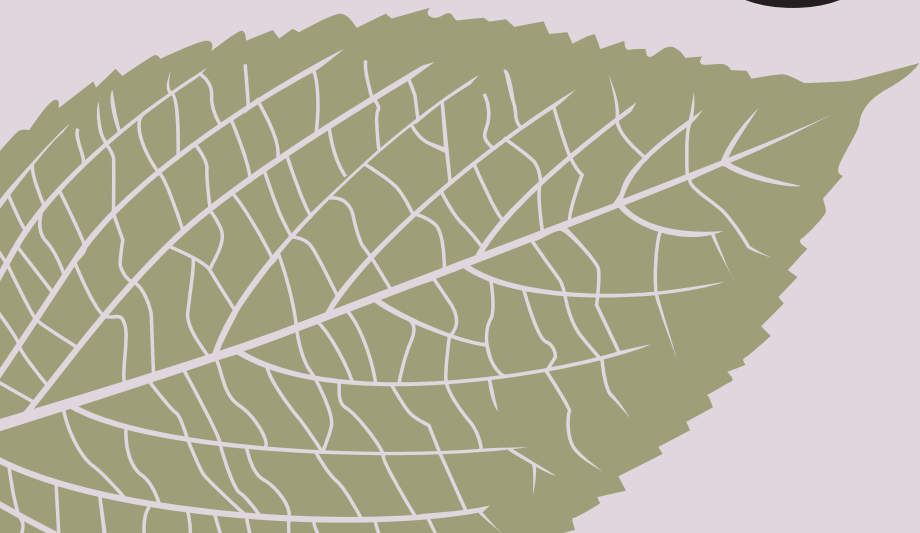


writing note.



VOL.

8



選曲座談会

座談会に参加したみなさん

中瀬綾乃：2年生（チューバ）：**中**

好きなもの：たくあんとほうじ茶。あと、自分の家の白米。
Piece（金管五重奏）で活動中。

奥田愛美：2年生（フルート）：**奥**

好きなもの：お抹茶、ジブリ、緑色。
nico2+（トランペット・ピアノ・フルート・ユーフォニウム・クラリネット）で活動中。

川瀬幸奈：2年生（ピアノ）：**川**

好きなもの：アイスクリーム、飛行機、旅行。

煤田志保：2年生（声楽）：**煤**

好きなもの：食べること！
2人ともウーパールーパー（ピアノ・フルート・ヴォーカル）で活動中。

日本語ライティング支援室スタッフ：編　好きなもの：猫

昨年ご好評をいただきました、学生による座談会。今回は学外で演奏するときの選曲について。まだ暑さの残る9月の某日、日本語ライティング支援室にて座談会が行われました。

（編） 皆さん、それぞれグループで演奏活動をしています。どういうきっかけで結成したのでしょうか？

中：Pieceは、ミレニアム・スチューデント・コンサートがきっかけです。一緒になったトランペットの子の「金管五重奏をやってみないか」という発言を聞いて声をかけました。私もずっとやってみたいと思っていたので。その後、2人でメンバーを探して、今のメンバーが集まりました。

奥：nico2+は、フレッシュマン・キャンプで全員同じ班だったんです。フレッシュマン・キャンプでOMSBI（音楽の仕事情報館）の活動について聞いて…。みんな違う楽器だったんですが、「面白そう」とみんなが思ったので、そこからグループ活動を始めました。

川：ウーパールーパーは、「教養基礎セミナー」の授業でOMSBIのことを知って、やりたいと思った山下さん（ウーパールーパーのフルート担当）が誘ってくれたんです。

★とあるステージのプログラム

（編） 皆さん、有馬温泉ゆけむり大学（※）で演奏していましたが、そのプログラムについてお聞きします。

（編） おお、何かメモが出てきましたね。

中：nicoから行きます。私たちが演奏した時間は、子どもの多い時間帯だったので《となりのトトロメドレー》で子どもさん連れの御家族に足を止めてもらいました。その後、ひと味違った《涙のキッス》を演奏。《明日があるさ》では煤田さんたちも協力してくれて、一緒に歌ったり、小道具で演出してくれて、すごくよかったです。



奥：私たちnico2+が演奏した日は、「アリマニメ」というイベントがあったので、「アニメ」をテーマに組みました。《残酷な天使のテーゼ》という曲でOMSBIの方とセッションをして豪華なプログラムになったので、一番思い出に残っています。

Piece

- ◆ オー・シャンゼリゼ
- ◆ となりのトトロメドレー
- ◆ 涙のキッス（ヴォーカルあり）
- ◆ Arrietty's Song
- ◆ We are!
- ◆ 明日があるさ（コラボ）

nico2+

- ◆ 残酷な天使のテーゼ（コラボ）
 - ◆ 宇宙戦艦ヤマト
 - ◆ アシタカとサン
 - ◆ ジブリメドレー
 - ◆ ルパン3世
 - ◆ 風になりたい
- テーマ「げきあつ」

ウーパールーパー

- ◆ リンゴの唄
- ◆ My Heart Will Go On（フルートソロ）
- ◆ 命の名前
- ◆ It's Only a Paper Moon（手品）
- ◆ 朧月夜

※「有馬温泉 ゆけむり大学」とは、有馬温泉観光協会と大阪音楽大学、近畿大学、神戸芸術工科大学、武庫川女子大学の4大学が「つながり」をテーマに、若者の力で有馬温泉を活性化させようと2010年にはじまった企画です。今年は8月27日～9月2日に開催されました。大音は昨年引き続き1～2年生が51名参加し、音楽で有馬を盛り上げました。

川：ウーパールーパーは、『リンゴの唄』フルートソノの《My Heart Will Go On》をやって、そのあと『It's Only a Paper Moon』という洋楽の曲では手品をしました。(編) おお、手品。手品のしやすい曲ってありますか？

川：ありますね。《It's Only a Paper Moon》はヴォーカル曲で、間奏で手品やMCをするタイプの曲



煤：私は音楽を聴きに行くのが好きで、高校の時からよく行っていました。日本のロックが好きなんですけど、楽しいパフォーマンズをしているバンドがたくさんあって、自分もできたらいいなって考えた結果、今のスタイルになりました。

(編) パフォーマンズは煤田さんが？

川：そうです。基本的に歌う曲は煤田さんが『こんな感じがやりたい』っていうのを参考にして決めます。たまにこちらからもやりたい曲を言ったり。みんなで話し合っって選びますね。誰かが仕切るといよりは、しゃべりながらノリで決めていく感じですよ(笑)

中：プログラムで目標にしているのは、OMSBーに参加している他のグループの人たち。こういうライブ活動の先輩ですから。

一同：へええ。

です。他に歌なしでBGM型の《アメリカン・パトロール》という曲もあります。

(編) プログラムで意識することはありますか？

奥：最初と最後に気を使いますね。最初っぽい曲、最後っぽい曲を決めて、間に退屈しないように楽しい曲を入れる。coo2+だと《風になりたい》を最後にすることが多いです。

中：Pico も最後の曲は決めていきます。プログラムは当日に決めることも多いんですが、最後は金管五重奏ならではの、華やかな感じの曲で終わるようにしてます。

奥：他には、クライアントからの依頼で演奏する場合、要望が来ることもあるので、それに基づいて作ることもあります。

(編) たとえば？

奥：クラシックメインでとか、クリ

中：MCで目標にしているのは、潮見裕章先生ですね。一度、先生のMCを聞いたことがあるのですが、その時のMCが印象的だったので、いつも頭の片隅に置いています。例えば、中学生向けのコンサートで、途中で退屈しないようにという工夫をされたかとか。

奥：お手本にしたいのは、「いまいまいま」の先輩。ピアノで4手をしてるグループなんですが、MCがうまい。BGMと演劇を足したみたいな感じで、おもしろいんです。カッコイイ系でもあります。でもcoo2+は、カ



スマスのイベントだったらクリスマスのは必ず入れてとか。あと、ショッピングモールだったら、音が大きい曲は止めてほしいとか。

中：どうしても金管は、大きな音が出やすいので。会場でのお客さんとの距離を事前に聞いて、近かったら、最初と最後だけ華やかにして、あとはしっとりした曲で固める、というふうを考えます。

(編) 事前に下調べは必要？

中：行く前に調べますね。会場がどのくらいのキャパシティで、普段どういう人が来ているかとか。

奥：インターネットで調べたり、OMSBーのスタッフさんに聞いたリ。

★あこがれの〇〇

(編) プログラムを作るとき、お手本というか、参考になっているものはありますか？



ツコイイ系の真逆にいる気がする…

(笑)

川：いやいや(笑) coo2+ はかわいいいな。

中：うん、みんなかわいい。吹いてるとき動いたりするのも、自然な感じがいい。

奥：体はね、勝手に動くから…。

一同：(笑)

集まれ！大音の素敵なめがねさんたち！

大音の★めがねさん

9日目 管楽器専攻1年 土海祐輝さん（チューバ）

今日のめがね： 黒いセルフレームで内側が明るいオレンジ色。実は、伊達めがねだそうです。普段使う伊達めがねだけで6本、ちょっと変わり種の伊達めがねも多数持っているとか。もちろん、視力矯正用のめがねも家のあちこちに転がっていて、相当のめがね持ちの様子。



★ 今回のめがねさんは、管楽器専攻（チューバ）の土海くん。土海くんは、日本語ライティング支援室の「名刺講座」に参加したのできつかけに、新たに自分で作った名刺を持って、インタビューに答えに来てくれました。

—— 伊達めがねということですが？
「はい。でも、視力も悪いです。コンタクトの上に、伊達めがねをかけてます」

—— コンタクトにしたきつかけは？
「演奏をしていると、めがねがずり下がってくるんです。合奏中に顔を上げると、指揮者がめがねのレンズの外に見えて、すごい違和感があつて。それが理由です。あとは、めがねをかけていると、目が小さく見える（※）んじゃないかと思って（笑）。コンタクトにしてから快適です」（※）近視矯正めがねをかけていると、傍目からは目が小さく見えることがあります。

—— なぜそこから伊達めがねに？
「今年の3月にコンタクトにしたんですが、めがねのインパクトが強かったみたいで、入学以前の知り合いに、『だれ？』って言われたからです。めがねが必要だと思ひ、貰くことにしました。あと、めがねを外すと、『顔が怖い』とか『顔が薄い』とも言われます。一人の時にそつと外すことにしてます」

★レパートリーの広げ方

（編）皆さん、たくさんのレパートリーを持っていきますが、どういふふうに広げていくのでしょうか？

中：最初のステージは、同じ編成で活動していた先輩から、楽譜をコピーしていただいた曲でプログラムを作りました。次のステージからは『それじゃあかんやろ』と、自分で曲を集めるようにしました。

（編）楽譜はどうやって？

中：インターネット上で楽譜を探します。金管五重奏はたくさん楽譜があるので、自作のリストをみんなで見ながら『どんな曲したい？』って相談して。

川：うちは音源を探して、色んなアレンジを見て、『このアレンジでやってみたいな』って思ったのを楽譜にします。

奥：ニコ+はメンバーが編曲して

います。私はあまりしませんが（笑）
中：ニコ+もウパーパーパーも編成が珍しいからね。尊敬します！

★まとめ

（編）そろそろまとめに入りたいと思います。これから演奏活動を始めるように思う人や後輩にアドバイスはありますか？

中：いっぱい失敗を経験したほうがいいと思います。自分がやりたいことをまずやって、失敗したら、何が原因だったのかを覚えておいて、次の機会に『前はここで失敗したから次からはこうしよう』っていうのをどんどん積み重ねていったら、自分のプログラムができてくると思う。今のうちにいっぱい経験して、上級生になった時に活かしてください。

奥：私は選曲について。自分たちが楽しくないと、誰も楽しくない

ない。それが一番重要だと思う。だから、自分たちが盛り上げられる曲を選曲に入れることも大切だと思います。モチベーションを上げるためにも。

川：大事なのは、全員で話し合っていて、意見を聞いて決めることだと思ひます。誰かだけに任せるとかじゃなく、一人の意見に任せるとかじゃなく、話し合つて全員でやっていくのが、そのグループの色になっていくと思います。

煤：楽しくやればいいと思う。大衆は限られた時間しかないから。

奥&中：うんうん、それに尽きる。

皆さん、本当にありがとうございます。皆さん、本当ありがとうございます。とても興味深い話がたくさん聞けました。これからも活躍されることを期待しています！

★ ファッションについて

—— 土海くんは、服装のどこかにいつもピンクが入ってますね。

「ピンクにこだわるようになったのは、大学に入ってからです。入学式に全身ピンクで行ってから『ピンクマン』って呼ばれるようになりました。そこから、『常にピンクを身につける』のが暗黙のルールのようになって、今に至ります。ここだけの話、下着もほぼピンクです(笑)」

★ 音楽について

—— テューバを始めたきっかけは？

「中学校の時、吹奏楽部に入ったことです。最初、野球部に入ったんですが、必要な防具やユニフォーム



ムをそろえるのにすごくお金がかかりました。音楽をやっていた父に、『そんだけ金かけたんやから、辞めたら吹奏楽部やらせるぞ』って言われて



たんです。僕自身は、『野球部に入れる』とウキウキしていたので…」

—— どうしてテューバを？

「吹奏楽部に入学した頃、3年生が引退して人が少ない時期で、部員1人がユーフォニアムとテューバを兼任している状態だったんです。それで、僕がテューバを吹くことになりました。テューバって、あまり目立たない楽器というイメージを持たれがちですが、自分のやりかたを見つけたいなと思っていました。ある日、父が《チャルダッシュ》をテューバで吹いている人の動画を教えてくれて。それを見て、『自分もやりてえ』と思い、そこから猛練習を始めました。次の年に、ソロ・コンテストをその曲で受けて、賞を貰いました。そこから僕はテューバのソロで、自分のやりかたでやるうと決めました」

—— ソロというと、どんな活動を？

「学内・学外問わず、コンクールに出まくってました。『コンクールに出ないと成長しない』と思って。『つまいな』って思った同学年の人や、学校の先輩がコンクールで賞を貰っているのを見ると、メラメラするというか、『負けたくない』と練習に励みます」

—— 前向きなライバル心を持ち方ですね。

「そうですね。日本クラシックコンクールっていう有名なコン

クールがあるんですが、同じ高校の、1つ上の先輩が、このコンクールで1位2位なしの3位(最高位)を貰ったんです。それで、自分の気持ちに火がつかました。それから猛練習して、次の年(第21回「金管楽器部門 高校男子の部」)に1位なしの2位をとりました」

—— 毎日の練習スケジュールは？

「大学が開いてから閉まるまで練習しています。1限の授業の前に1、2時間練習してから授業に行きます。空いている時間は0号館かP号館で21時まで練習します。…と言っても、実際はよく寝坊したりするので、理想はこんな感じです(笑)」

★ 趣味など

—— 趣味はありますか？

「先生に『お前ももうこれから趣味に音楽って言ったらあかんねぞ。これからはそれが仕事になるんやから』と言われて。それで降、趣味はなくなりましたね。しいて言えば、スポーツ観戦とかですね。あと手品。家がジャズ・バーをやっていて、そこで働いていたマジシャンに、教えてもらっていました。テレビで手品を見ても、大体手品のタネが分かります。小学校の頃までは、マジシャンになりたくて、中学校に入ってからは野球選手になりたくて…。今も若干、野球選手へのあこがれがあります」

—— 今も野球選手なんですか(笑)

「はい。あと、詩を書くのも好きです。詩を書いて、自宅の机の横に貼ってます。『夢はでっかく、根は深く』って筆で色紙に書いて。あと『一生勉強、一生青春』とかも書いてます」

★ 将来について

—— 今、考えている夢はありますか？

「音楽を続けることです。僕が目指しているのは、『テューバプレイヤー』じゃなく『ミュージシャン』です。楽器は音楽を表現するための『道具』だと僕は考えています。僕もそうですが、今の演奏家は、楽器の技術にとらわれ過ぎて、音楽ができていないので…」

—— なるほど。

「あと、首席で卒業したい。同じ学年に、上手い人、すごい人がいっぱいいる。今は負けてると思いませんけど、4年後、絶対首席で卒業するつもりです」

—— 期待しています！ 今日ありがとうございます。



音楽人としての第一歩

パソコン用のメールを使ってみる！

毎日皆さんが使っているメール。特に携帯電話のメールは、家族や友達と連絡を取る手段として気軽に利用している人が多いと思います。でも携帯電話は、パソコン用のメールに比べ、機能に制限があることを知っていますか。日本語ライティング支援室では、学生の皆さんに社会人としての第一歩として、パソコン用のメールを普段から利用することをおすすめします。

パソコンメールの利用をおすすめする理由は、次の2つです。

1つ目は、多種多様なデータを送受信できること。たとえば、携帯電話では限られた種類の画像データしか送受信できませんが、PCメールなら「pdf」という種類のデータや、ワードやエクセルのデータが送受信可能です。プロフィール写真、チラシ、楽譜など、音楽活動をする上で欠かせないデータのやり取りが、PCメールではとても簡単です。

その2

オフィシャルの顔を持つ

その1

色んなデータが送受信可能

2つ目の理由は、一般的に携帯電話用のメールアドレスは、PC用のアドレスに比べて、プライベート向けと見なされがちであるということ。名刺の連絡先に携帯電話のアドレスを記載する人もいますが、その場合の名刺は、プライベートな相手に渡します。「社会人になる」とは、オフィシャルの顔を持つということ。友達とはプライベートの携帯メール、音楽活動や就職活動など社会的な場ではPCメールと、今のうちから使い分けましょう。

PCメールのアカウントは、YahooやGoogleのサイトで、無料で簡単に作ることができます。スマートフォンや携帯電話からもチェックできるので、とても便利です。

取得サイト：G-mailの場合

<https://accounts.google.com/>

ハイ、ちゅーもくー



H号館304号室では、

「書き方」の相談を受け付けています。

- ・レポート
- ・手紙
- ・チラシ作り
- ・企画書
- ・名刺作り
- ・プログラムノート
- ・就職活動の作文 など

ホームページできました。

<http://ongakutokotoba.com/>

発行日：平成24年11月1日発行

大阪音楽大学 大阪音楽大学短期大学部 日本語ライティング支援室

平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択事業

H号館304号室（内線527） 相談受付：月～金 10時～18時

メールアドレス：daion304@gmail.com